

コニカミルタ株式会社

2018年（平成30年）3月期 第3四半期 決算説明会

主な質問と回答

日 時： 2018年2月1日（木）18:30 ～ 19:30

場 所： 野村コンファレンスプラザ日本橋

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

【全社業績に関して】

Q. 説明会資料の20ページで説明した内容も含めた構造改革の効果はどれくらい見込んでいるのでしょうか？また4Qに実施する構造改革で発生する費用は固定資産の流動化施策（セール&リースバック）で相殺するということですか。

A. 構造改革の効果は中期経営計画の期間2017年度-2019年度の3カ年の累計で約200億円を見込んでいます。4Qに発生する費用はセール&リースバックで確実に打ち消します。

【事業に関して】

Q. オフィス事業では3Qに新製品が出て、それが貢献するということでしたが、カラー複合機の販売状況を教えてください。

A. 販売台数については、カラー機は前年同期比で8%のプラスでした。モノクロ機を合わせても7%のプラス。北米と中国は堅調を継続しました。欧州では受注は好調でしたが、期間後半に積み上がった受注分が、クリスマス休暇など稼働日の制約もあり、3Q中にお客様への設置が完了できず、受注残が発生しました。

Q. プロダクションプリントでの差別化として紹介のあったIQ-501（説明会資料5ページ）の装備率を教えてください。また、既に顧客に設置されている装置への装着も可能でしょうか。

A. AccurioPress C6100に対する装備率は、欧米では70-80%、日本では100%近くと、高い装備率で推移しています。モノクロ機のお客様へも訴求していきたいと考えています。既設の現行機種への装着が可能です。対象はAccurioPress C6100、C6085、C2070、C2070P、C2060です。

Q. 計測機器に対する今後の需要の見通しについて教えてください。

A. 2017 年度は OLED のモバイル機器への採用が追い風になったことは事実ですが、お客様層が拡大したことも売上高成長の要因です。2018 年度についても中国勢の OLED への投資意欲は旺盛ですし、色再現領域の広い OLED では当社の技術力の高さが生かせると考えています。

以上